

1.研修プログラムの名称

脳神経外科研修プログラム

2.研修概要（理念・特徴）

脳神経外科学講座は新都心の脳神経外科の基幹病院として脳神経外科疾患の全領域に対して最先端の高度先進治療を行っています。又迅速な診療が必要な超急性期・急性期の脳血管障害や神経外傷に、救命救急センターと連携しながら対応し、脳卒中診療に対して脳神経外科、高齢診療科、神経内科にて 24 時間当直体制としております。

3.一般目標

脳神経外科学を通じて神経疾患の基本な知識、技術の修得と人間性豊かな臨床医の教育」を初期研修目標としています。一般に敬遠されがちな神経疾患や意識障害の診断治療を基本から系統的に習得することができます。

4.具体的目標

1) 経験すべき診察法・検査・手技

1. 神経学的診察ができ、記載できる
2. X線・CT検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
3. 造影CT検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
4. MRI 検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
5. 核医学検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
6. 神経生理学的検査（脳波・筋電図など）の適応が判断でき、結果の解釈ができる
7. 気道確保を実施できる（気管内挿管、気管切開の手技を含む）
8. 人工呼吸を実施できる（バックマスクによる徒手換気を含む）
9. 髄液検査（腰椎穿刺検査、脊髄ドレナージ）が実施でき、結果の解釈ができる

2) 経験すべき症状・病態・疾患

10. 頭痛を診察し治療に参加できる
11. めまいを診察し治療に参加できる
12. 失神を診察し治療に参加できる
13. けいれん発作を診察し治療に参加できる
14. 視力障害、視野狭窄を診察し治療に参加できる
15. 意識障害について初期治療に参加できる
16. 外傷について初期治療に参加できる
17. 脳・脊髄血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）を診察し、治療に参加できる
18. 脳腫瘍の患者を診察し、治療に参加できる
19. 脳・脊髄外傷（頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫）を診察し、治療に参加できる

5.指導体制・方略

原則的に診療チーム（3 人～4 人）に配属される。主任指導医の管理下に研修カリキュラムに則った有機的な研修を、手術、病棟診療を中心に行う。

6.週間予定表

	月	火	水	木	金	土
--	---	---	---	---	---	---

7:40 ～9:00	検討会(抄読 会)	検討会	検討会後教授 回診	検討会	脳卒中合同カ ンファレンス	検討会
9:00 ～12:00	手術	病棟回診	手術	病棟回診 手術	手術	病棟回診
13:00 ～17:00	手術、検査 病棟回診	検査	手術、 病棟回診	手術、検査 検査	手術、血管内 手術 病棟回診	(なし)

7.研修活動

- 週1回いずれかの日に当直
- キャンサーボード(手術、化学療法、放射線治療、月一回)
- 脳卒中カンファレンス(月曜～金曜)
- 神経病理カンファレンス(不定期)
- 神経放射線読影(2ヶ月毎)
- 他学講師による大学院セミナー(不定期)
- ドライラボ(4, 5, 6月、合計6回)

8.評価

1) 自己評価

患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する
EPOCを用いて自己評価を行う
研修事後レポートを用いて自己評価を行う

2) 指導医による評価

EPOCを用いて評価する
研修事後レポートより評価する
他者評価表を用いて評価する
研修終了時に試験を行い、振り返りをおこなう

3) コメディカルによる評価

EPOC又は評価表を用いて評価する
他者評価表を用いて評価する

4) 研修医による評価

EPOCを用いて指導医(上級医)、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する
評価表を用いて指導医並びにコメディカルを評価する

9.その他特記事項

本教室の特徴：

- 脳神経外科の主要4大疾患(脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、先天奇形)の症例数が豊富で、偏りになく早期に経験できる。特に頭蓋底良性腫瘍は日本で最多の症例数を誇り、聴神経腫瘍においては世界レベルの症例数である。
- 救急医学講座、神経内科、高齢診療科、小児科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線科、病理診断科等の他科との関連講座と良好な協力体制があり、集学的医療の研修が可能である。
- 海外、国内一流施設に1～2年の留学可能である。

- 脳神経外科の各分野、部門のエキスパートがおり、研究や高度な診療について直接指導が受けられる。
- 脳神経外科専門医の高い合格率を誇る。
- 院内の他科よりも早期に助手に昇進する。また関連病院が多くあり早期に有給職となる。
- 修得可能な資格
 - 1) 医学博士
 - 2) 日本脳神経外科専門医
 - 3) 日本脳卒中学会専門医
 - 4) 日本脳神経血管内治療学会専門医
 - 5) 脳卒中の外科技術専門医
 - 6) 神経内視鏡技術認定医
 - 7) 日本がん治療認定医 他